

の常談に

獄の縁起といふもの、病王坊よりあり、獨り徳
那山運福寺縁起とあり、附書のこと多くし
て、生息依比咩の事ハ見へ、是大さハ白鳳元
年當年と云ふ二るに獄より獨り出た、お川役所老尼
を見て、束光と云ふに白髪、老尼出て、老尼
よ云て曰、汝り多々お我と云ふと、いふ事
なり、後年汝り病け、獄より來り、温泉を見立
て、死生を報いん、是又是を言、復さへ、我ハ
是、徳那寺縁起とて、忽ち失をあらと云ふ、主

後代を経て八十又代

後堀川院嘉禄元

年大和より小聖上人といふ僧來り、けふ
の半後、二席を結ひ、温泉をいん、立万民の病苦
を救ひ、藥師花王おを建立し、あふと云、
湯村の傳來記と名付、くろね、い、嘉禄二年
とあり、病王坊の縁起、い、元年とあり、
より當年より縁起の末より、又、嘉元年壬辰初
より、當年より、見、い、い、法、お、い、い、
久、い、い、出家の記、い、い、或人曰、願、い、志、真、い、
の、中、代、旧、記、あり、やと尋、あり、い、い、縁起と